

2016年7月29日

大阪市の学校教育の崩壊状態と

「育鵬社」版教科書不正採択の責任者、

大森不二雄「市・特別顧問」(前教育委員長)を

解任してください!



教職員なかまユニオン

平和と民主主義をめざす全国交歓会

[本件連絡担当 090-1914-0158]

- 大阪市教育委員会の大森不二雄・前教育委員長は、任期を残した3月末に突然、「本業の大学教員が忙しくなるから……。」という理由で自ら辞任しました。昨夏の中学校社会科教科書(歴史、公民)の「育鵬社」版の不正採択問題が明らかになり、市会(教育こども常任委員会)によばれて、野党会派(自民、公明、共産)からの厳しい追及を受けている中でした。責任を取らずに逃げたのです。
- ところが辞任翌日の4月1日に吉村洋文市長が密かに指示して、4月15日付で大森前教育委員長は「教育政策」担当の「市(長)・特別顧問」に就任しました。
不正採択のために社間で社員を市民アンケートに動員したフジ住宅株式会社と育鵬社との癒着、さらに市の教育委員とのつながりの具体的検証・糾明は、未だ人選中の、市会決議を受けた第三者委員会(「外部監察チーム」)の仕事になりますが、その報告を待たずとも、不正が引き起こされたこと、その採択過程の直接の最終責任者が大森前委員長であることは明らかです。少なくとも、その渦中で辞任した者を、再び続けて特別顧問に当たらせている吉村市長の人選は、税金の使途を含めて大きな間違いです。
- 大森不二雄顧問は、維新・橋下前市長の任命で教育委員に就任後すぐに委員長になり、全国学力テスト、学校選択制、高校入試の調査書(内申書)制度改悪、生活指導の厳罰主義の統一基準化、子どもへの「君が代」強制、等を進め、子どもたちに点数競争をあおってきました。その結果子どもと教職員は管理と多忙で疲弊し、大阪市の学校教育の崩壊状態を招いています。
しかし、特別顧問就任後も5月と7月(26日)の総合教育会議(市長と教育委員)に出席して、その誤りを反省するどころか、さらに押しつけようと発言を続けています。
大森特別顧問は、それに就任する資格はありません。自ら辞任しないのなら、任命した吉村市長の責任で誤りを正すこと、上記表題のことを実行することを要請し、唯一顧問任免の人事権を持つ首長としての考えを、直接回答し説明することを求めます。 以上。